

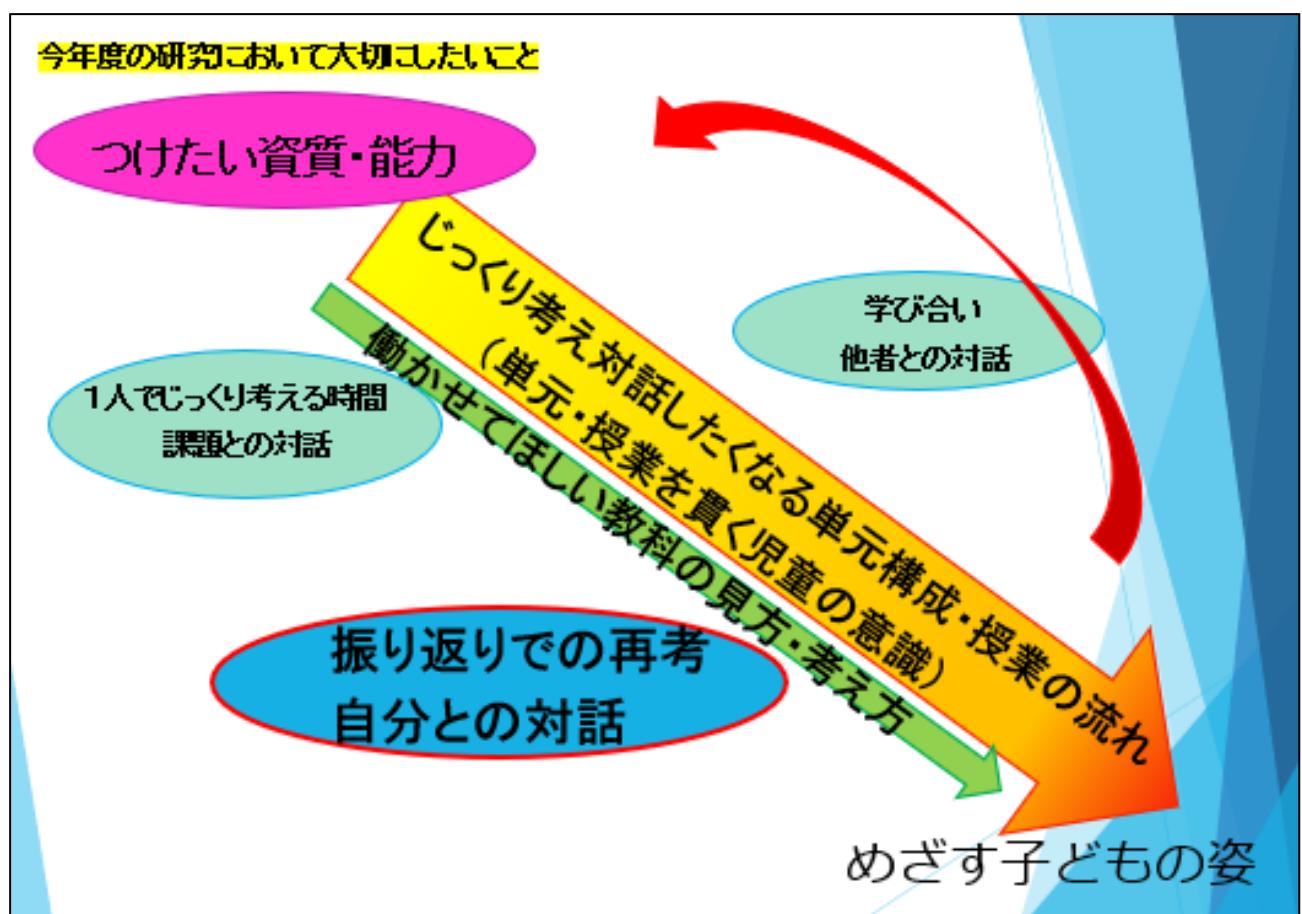
## 1. 研究主題・副主題

# 学び合って考えを深めていく子の育成 —対話から、自分の学びをつなぐ授業を通して—

## 2. 主題・副題設定の理由

本校では、学校教育目標「人間性豊かな児童の育成」を受け、研究主題を「学び合って考えを深めていく子」と設定した。本校が考える『学び合って考えを深める』とは、お互いの考え方を聴き合い、本質を見つけようとする力である。子どもは異なる考えに触れ合う中で自分の考えを再構築したり、互いの考え方を認め合う中で新たな価値や見方を構築したりするであろう。互いに協働し、学びを深める楽しさを自覚することは、これからの中学生を生き抜くために必要な「主体的・対話的で深い学び」の実現につながると考えたからである。

昨年度は、副題を「違いを認め合い、互いに聴き合う授業を通して」とし、取り組んだことで、仲間と共に学び合う姿勢は確実に育まれてきている。しかし、協働的な学びの場が、本来の目的である自己の考え方を深めることに十分つながっていない場面も見られた。学びをつなぐ上で、協働的な学びの場における考え方の広がりは見られたものの、個の考え方の深まりにはつながっていないのである。また、それぞれの教科等の性質に応じた見方・考え方を働きかけた授業づくりが進められてきたかといえば、現時点では、まだ十分とは言えない。そのため、各教科等の特質に応じつつ、学び合いの成果を個の学びに生かす支援の在り方について、さらに研究を深めていく必要がある。



そこで今年度は、昨年度同様、カリキュラムマネジメントの柱「思いやりをもって共に生きる子の育成」を受け、研究副主題を「対話から、自分の学びをつなぐ授業を通して」とした。「対話」とは、課題と自分がじっくり向き合う「課題との対話」、自らの得た考えを友達と向き合って伝え合い、広げる「他者との対話」、そして児童自身が何を学んだか、考えを深める「自分との対話」を示す。各教科等の特質に応じた見方・考え方を働かせながら3つの対話をつないでいくことで主題においての「考えを深めていく」姿につながるのではと考えた。また、継続して朝に取り組んでいる「トークタイム」も児童自身の自己対話力を高めていく学び合いの素地として重要と考える。この「トークタイム」と授業における「3つの対話」を丁寧に積み重ねていくことで、児童1人1人が対話から自分の学びをつなぎ、考えを深めていく姿につなげていきたい。「自分との対話」場面がより深まるように、課題と自分が向き合う時間や共に本質を見つけようとする対話がある授業を目指し、全教科を通して今年度も「学び合って考えを深めていく子」の育成を目指す。

### 3. 研究の仮説と重点

本校では、以下の仮説のもと研究を進めていく。

#### 研究仮説

はじめにじっくりと課題と向き合い自分の考えを持った子どもは、自ら他者に、考えを聞きたい思いをもち、聴き合う場が生まれる。主体的に聴き合いの場をもつだけでなく、自らの考えを再考することで、課題に対する新たな考えを広げたり、深めたりする姿になるのではないか。

「相手の考えを聴きたい」思いをもつためには、児童がじっくり考えたくなる課題に出会うことが大切である。自ら進んで関わろうとする主体性、より多くの考えを聴きたい思いが溢れ、多様な他者の視点や考えを認め、協働する力につながる。互いの考えのよさを認め合い、課題に対しての考えを再考する中で、自己の成長を認識する「学ぶ楽しさ」を実感できる授業を重ねていきたい。

#### ◎「児童に歩ませたい単元・授業の流れ」を設定する。

自分の考えをもち、他者と対話したくなる単元構成（または課題設定）（既習、生活経験、児童の問い合わせ、思い、願いなど）に取り組む。課題に対して疑問をもったり、確かめたくなったり、願いや思いをもつことで単元（課題）を通して自分の学びをつないでいく姿にしていく。

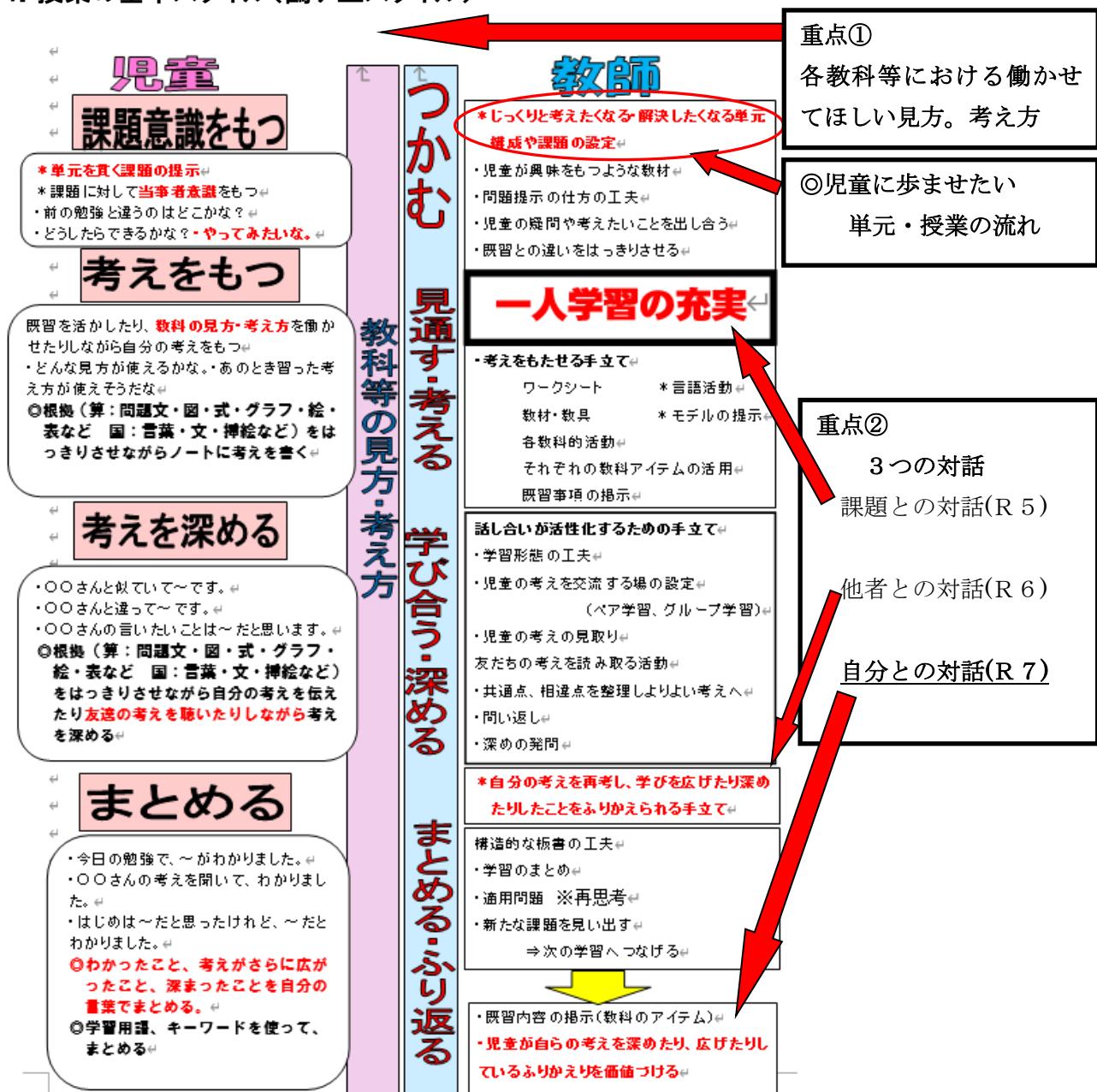
#### 重点1 「見方・考え方を働かせる（生かす）手立て」を設定する。

単元において働くと考えられる（予想される）見方・考え方を指導者が明確にもつことで、見方・考え方を働かせながら課題に取り組まることができる発問の工夫につながる。そして児童が、見方・考え方を働かせるよさを実感できる授業をつくっていく。

#### 重点2 「3つの対話」（課題・他者・自分）を促す手立てを設定する。

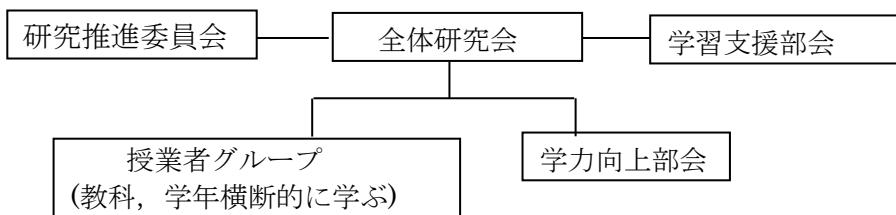
学びをつなぐためのプロセスとして、①既存の知識・技能を生かして思考・判断する「課題との対話」、互いの考えを表現し、協働的に学ぶ「他者との対話」、③知識、技能の再構成を図り、自ら学びをつなぐ「自分との対話」を実践する。特に今年度は「自分との対話」を重点的に取り組む。一人一人に考えの広がりや深まりを自覚化させるための手立ての工夫を研究していく。単元や本時のどこに再考の場面を位置付けるか、どのような方法で行うか、子ども自身が必要感をもって考えるためにどのような手立てが考えられるかについて考え、学びを深めていく子どもの姿につなげる。

#### 4. 授業の基本スタイル(鶴ヶ丘スタイル)



#### 5. 研究の進め方

##### (1)研究組織



##### ・研究推進委員会

研究の方向・内容・進め方・研究構想図などの原案を作り、全体研究会および低・高部会に提起していく。

・全体研究会

研究の方向・内容・進め方や研究授業について協議し、学校研究についての共通理解を図る。

・授業者全員

研究授業科目を中心に実践研究を図る。

・学力向上部会

学力向上を含め、共通実践など校内の学習支援全般について協議し、提案する。

各種調査（全国学力調査・県学力調査など）を分析し、対応を検討する。

## (2)研究方法

- ① 主題・副題を受けて、全体研究会・授業交流会で研究の方向性を確認する。
- ② 授業者自身で選んだ教科を中心に年2回(1回2週間)の授業交流会を実施し、日々の授業で研究実践する。
- ③ 事前研は授業者が作成した授業シート(共有フォルダに入れる)をもとに授業者グループごとに交流会前に行う。
- ④ 授業交流会期間のうち授業者指定の授業における参観・視聴・事後研は全員が行う。
- ⑤ 授業者は研究授業を全て録画し、共有フォルダに入れ、全員がいつでも視聴できるようにする。
- ⑥ 参観者は参観シートをもとに自身の日々の授業実践に活用できるよう、重点についての協議を行う。
- ⑦ 先進校視察の報告や講師を招聘した学習会を行う。

## 6. 研究推進年間計画

4	・研究主題・副題、研究の基本方針、研究組織、研究構想図等についての共通理解 ・児童の実態把握 ・研究の重点の設定、重点の具体化に向けた取り組み ・研究授業計画、共通実践の確認 ・研究主題・副題を意識した授業の基本スタイルの確認 ・指導案の形式について検討
5	・教科等の資質・能力育成シート・学力向上ロードマップの作成
6	・提案授業（全体研） ・授業交流会①（2週間）
7	・1学期のふり返り
8	・全体研究会（2学期の方向性の確認）
9	・全体研究会（2学期の方向性を入れた提案授業）
11	・授業交流会②（2週間）
12	・2学期のふり返り
1	・本年度の研究のまとめと研究集録の作成
2	・本年度のふり返り　　来年度の方向づけ　　学習アンケートの実施